ひょうご人権ジャーナル

ひろげよう こころのネットワーク

きずな

KIZUNA

2014
平成26年
12

特集テーマ

障害のある人

誰もが“活きる”まちづくり

2 グラフで見る障害のある人の人権

3 「障害者権利条約の批准と今後のまちづくり」
長瀬　修さん（立命館大学生存学研究センター 客員教授）

4 「気づきと共感によってつながっていく
人にやさしい持続可能な社会へ」
大塚毅彦さん（国立明石工業高等専門学校 教授）

5 「思いやりの心でめざす、支え合いの地域づくり」
早瀬憲太郎さん（NHKみんなの手話講師）
久美さん（昭和大学病院薬剤部）

6 「拉致問題の早期解決を願って」
拉致問題の早期解決を願う国民の集いin 石川（石川県）

7 ふれあいサロン

8 情報ぷらざ

兵庫県マスコット
はばタン

兵庫県・（公財）兵庫県人権啓発協会

障害者権利条約の批准と今後のまちづくり

立命館大学生存学研究センター
客員教授
長瀬（ながせ）　修（おさむ）さん

みなさんは「障害者」というと、どういう人を思い浮かべるでしょうか。ご自身をそう思う方も含めて、お一人おひとりの考えがあることでしょう。

今年、2014(平成26)年は、障害者権利条約を日本が批准し、日本の大切な法の一つとして、この条約が位置付けられた記念すべき年となりました。障害者権利条約(以下、条約)では、「障害者」と呼ばれる人の社会参加を邪魔するのは、一人ひとりの障害と様々な障壁の相互作用だという考え方が取り入れられました。そして、条約の批准に向けて改正された障害者基本法も、この考えに基づいて障害者を定義しているのです。大切なのは、「障壁」をなくすことです。

条約の実施のために、政府は昨年、障害者差別解消法という新しい法律を作りました。この法律の特徴は、「障害者だからダメ」(たとえば、障害者だからお店に入れない)という差別に加えて、「合理的配慮」がないことも差別だと定義したことです。

「合理的配慮」というと難しい感じがしますが、実は常識的なことです。たとえば、目が見えない人に向かって、字を読めというのは無茶でしょう。耳が聞こえない人に、音声で理解しろというのは無理でしょう。足が動かない人に階段を上れと言ったら、そう言った人のほうの常識が疑われてしまうでしょう。

目が見えない人には、言葉で説明する。耳が聞こえない人には書いたり、手話で話す。車いすの人にはスロープを準備する、そうした常識的な対応のことを「合理的配慮」と呼んでいます。これは、障害者だけの話ではありません。皆さんのお宅にイスラム教徒で豚肉を食べないお客さんが来た時に、豚肉料理を出すことはないでしょう。そうした一人ひとりにあった対応を示す言葉が「合理的配慮」です。

2016(平成28)年4月に施行される障害者差別解消法は、そうした常識的な対応をすることを社会のルールとして定めることで、時に起きてしまう非常識な対応をなくすことを目指しています。言いかえれば、何が差別なのかをはっきりとさせます。

まちづくりのハード面とソフト面両方において、「障害者」と呼ばれる人を困らせてしまうバリアをなくし、一人ひとりにあった「合理的配慮」を進めることが全員参加の社会、排除のない※インクルーシブな社会づくりに結びつきます。そうした取り組みを皆さんの街で、そして世界で進めるために、障害者権利条約があります。

※あらゆる人が排除されないこと。

プロフィール

青年海外協力隊員(ケニア)、八代英太参議院議員秘書、国連事務局職員(ウィーン、ニューヨーク)、国連カンボジア暫定統治機構国際投票所責任者、パレスチナ自治選挙監視員、東京大学特任教員等を経て、現職。主な著書に『障害者の権利条約と日本』(共編著、生活書院、2012年)や、『Creating a Society for All』(共編著、2012年、Disability Press)等。

特集

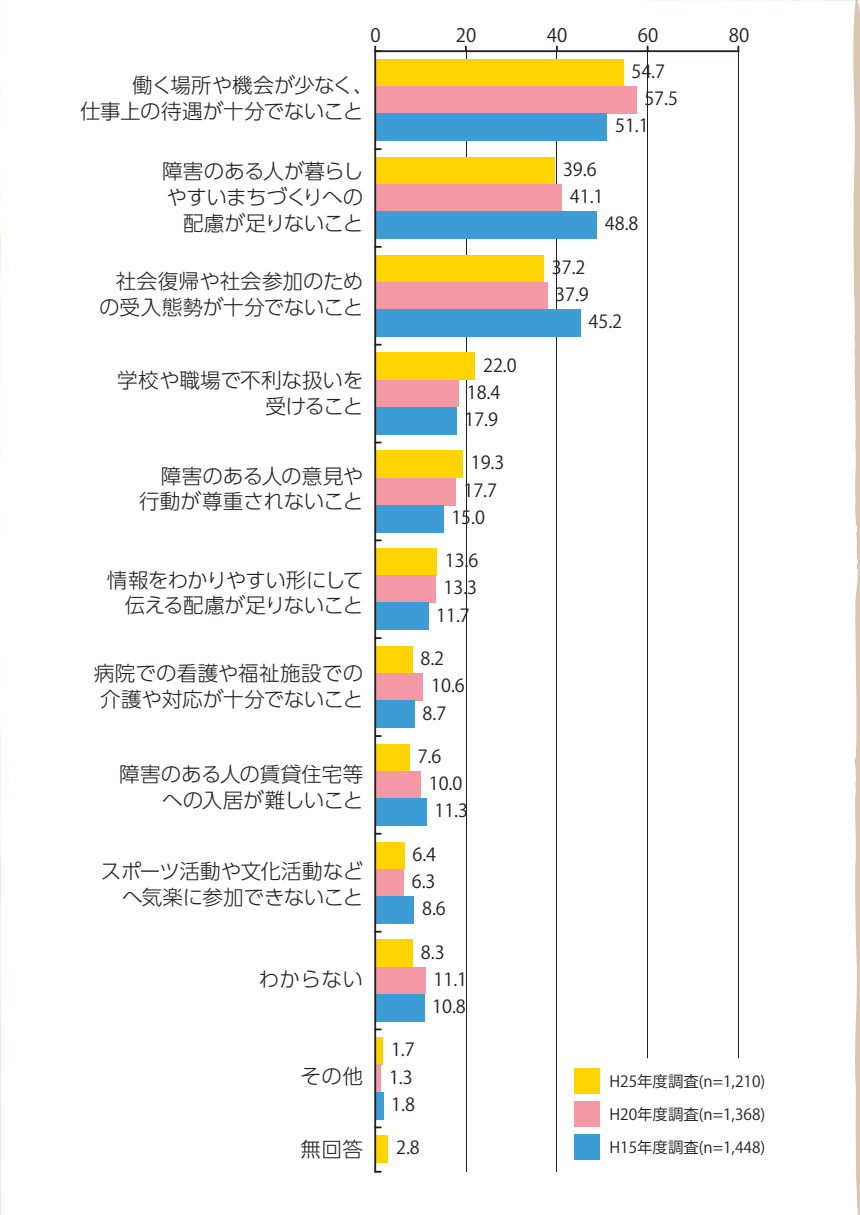
グラフで見る障害のある人の人権

2014(平成26)年1月、我が国は障害者権利条約を批准しました。障害のある人の尊厳が大切にされる社会づくりに向けた取り組みが、これまで以上に推進されていきます。本号では、誰もが地域の一員として、互いの個性を尊重し、ともに支え合うことができる社会について考えてみましょう。

平成25年度 人権に関する県民意識調査の結果より

障害のある人の人権において、特に問題があると思うこと。

(○は3つまで)



兵庫県が昨年度実施した県民意識調査によると、障害のある人の人権について県民の皆さんが問題と思うことは、「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと」が54.7%で最も高く、次いで「障害のある人が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと」(39.6%)、「社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと」(37.2%)の順となっています。

思いやりの心でめざす、支え合いの地域づくり

NHKみんなの手話講師
早瀬憲太郎（はやせけんたろう）さん

昭和大学病院薬剤部
早瀬 久美（はやせくみ）さん

ろう児のための学習塾を運営する一方で、NHK教育テレビで手話講師を務める早瀬憲太郎さんと日本で初めて聴覚障害者で薬剤師になった久美さん。ご夫婦は、聴覚障害の有無にかかわらず、皆が共に力を合わせて暮らしていく社会をめざして、それぞれの得意分野で活動されています。

Q. NHK「みんなの手話」には、どのような思いで出演されていますか。

憲太郎さん　講師を務めて8年目となります。番組を通して一人でも多くの方に手話という素晴らしい言語を知ってもらいたいという思いでやってきました。今年はV6の三宅健さんをナビゲーターに迎え、手話を勉強するというよりも手話での会話を楽しんでもらえるような番組構成になっています。「自分もろう者の方と楽しくお話したい」という視聴者の声をたくさんいただいています。

Q. 長年映像制作に関わり、映画「生命のことづけ」では監督も務められたそうですね。

憲太郎さん　本職は学習塾経営で、ろう児に国語を指導しています。その指導の一環として幼児向けの教材ビデオを作成したことがきっかけで、映像制作に携わるようになりました。この映画では、災害時において、障害のある人の死亡率が高いことをテーマに、同じ地域の一員である障害者の存在を意識することや障害の有無に関わらず、ともに地域づくりについて考える事の大切さを伝えたいと思っています。

Q. 久美さんは、ろう者として日本で最初の薬剤師なのですね。

久美さん　耳の聞こえない者には薬剤師免許を与えないという法律がありましたが、2001年に法改正があり聴覚障害者として初めて薬剤師免許を交付されることになりました。中学生の頃から、障害者として人に助けてもらうだけでなく、自分が人を助けたいという思いを持っていました。母が薬剤師をしているということもあり、薬剤師を目指すようになりました。ろう者の患者だけでなく、誰もが安心して薬を服用できる環境を作ることにやりがいを感じています。

Q. 支え合う地域づくりのために、読者の皆さんへお二人からメッセージを。

憲太郎さん・久美さん　コミュニケーションの問題や経験不足から、地域とのつながり方に悩んでいるろう者は少なくありません。障害の有無に関わらず、誰もが地域の一員として隣の人に関わり、困っている人には手を差しのべる思いやりが大切なのだと思います。ろう者は、ろう者であることを誇りとし、手話という言語を社会により広めていきましょう。手話という言語を知ってもらい、その豊かなろう者の文化を知ってほしいと思います。

早瀬 久美さん

大分県生まれ。1998（平成10）年明治薬科大学薬学部卒業後、薬剤師国家試験に合格。2001（平成13）年7月欠格条項法改正に伴い、薬剤師免許を取得。大正製薬株式会社、日本調剤株式会社を経て、現在、昭和大学病院薬剤部勤務。

二人の共通の趣味は自転車。久美さんの胸には、2013年デフリンピック（ブルガリア開催）の自転車競技MTB女子クロスカントリーで獲得した銅メダルが輝いています。

早瀬 憲太郎さん

奈良県生まれ。NHKみんなの手話講師。ろう児対象「学習塾 早瀬道場」を経営。東京都立大塚ろう学校教育相談指導員などを務める。1997（平成9）年から、非営利団体スマイルフリースクール理事長。長年、ろう児のための映像教材制作に関わっている。

気づきと共感によってつながっていく人にやさしい持続可能な社会へ

国立明石工業高等専門学校
建築学科　教授
大塚（おおつか） 毅彦（たけひこ） さん

当事者の主体性をサポート・育む

ユニバーサルデザインと似た考え方にインクルーシブデザインという考え方があります。それは、「障害のある人や高齢者、子どもなど、これまでデザインのメインターゲットから除外されてきた人々を積極的にデザインプロセスにインクルード（包括、巻き込む）する手法のことで、生活の中での困難や工夫に気づき、そこから機能的なデザインを生み出していく」英国発の考え方です。

平成23年度から毎年、眼の会（代表：榊原道眞（さかきばらみちまさ）さん：神戸市西区在住）と視覚障害の皆さん、学生、市民の皆さんと一緒に防災に関するインクルーシブデザインワークショップを開催しています。平成23年度は、「視覚障害の方の避難を一緒に考える」というテーマのワークショップでした。平成24年度は視覚障害者だけではなく、他の障害のある方にも多数参加してもらいました。このワークショップからは、「障害者や高齢者などの要援護者間でのコミュニケーションを図り、お互いの理解を深めていく事が大切」と当事者自らも気づき、主体的に行動することに発展しました。

学生達は様々な当事者の「日常の生きづらさ」に当惑しながらも耳を傾け、当事者と一緒に自分ができること（たとえば、地元の方々と連携し災害時要援護者向けの防災パンフレットの作成）を考えました。平成25年11月には眼の会主催による、様々な障害者や難病患者、NPO、事業者が集まり対話する草の根防災シンポジウムを開催しました。当事者の主体性を育み、当事者自らが地域と対話していける環境を一緒につくっていくことが大切です。

ゆるやかなつながりで地域の課題に若者と一緒に取り組む

市民活動団体うおずみん・魚住東ユニバーサルデザインプロジェクト[※1]は、2006（平成18）年に明石市魚住町を中心に、地域でユニバーサルデザインのまちづくりをやろうということで始まりました。「魚住町を日本一のユニバーサルタウンに」という壮大な目標を掲げ、セミナーやワークショップなど啓発を行ってきました。

現在は、魚住小学校区まちづくり協議会、明石高専、明石商業高校、明石清水高校などの若い世代も参画し、通常では出会うことがない在宅介護支援センター、作業所、障害者団体等幅広い分野の団体も参加し、高校生から80歳の高齢の方まで多様な主体が参画した多世代交流型のふるさとづくり「うおずみん・ふるさと創生プロジェクト平成21年～」[※2]を立ち上げています。

団体間の対話の中から自発的プロジェクトが溢れだし、様々な連携・支え合いや世代を超えた共育が生まれています。

地域社会での課題について、若者を交えて多様な主体が関わりながらの日常的な対話の場を設けていくことを心がけ、実践をそれぞれの立場で行っていく地道なプロセスこそが学びの宝庫であり、そうすることが「心の中の段差・偏見」が解消し、近い将来「障害のある人」というカテゴリーがなくなる社会へとつながるのではないかと思います。

※1 http://www.universal-design.net/
※2 http://furusato-pj.sakura.ne.jp/

視覚障害者の防災を一緒に考えようインクルーシブデザインワークショップで発表する参加者

プロフィール

専門は、ユニバーサルデザインのまちづくり、生活空間計画。学術博士。豊橋技術科学大学助手を得て現職。英国王立芸術大学ヘレンハムリンセンター客員研究員、明石駅周辺ユニバーサル社会づくり実践地区協議会づくり会長などを兼ねる。地域でのユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインのまちづくりの支援や人材育成を行っている。平成25年度兵庫県人間サイズのまちづくり知事賞（団体）など受賞

ふれあいサロン

読者からのお便り

10月号の「ワーク・ライフ・バランスを考える」ことはとても大切ですね。私は親の介護と仕事を両立させてきました。本当に大変でした。限られた時間で働き、安定した成果を出すことは、早くから意識して努めていかなければならないことを身をもって経験しました。

（相生市・イチの母さん）

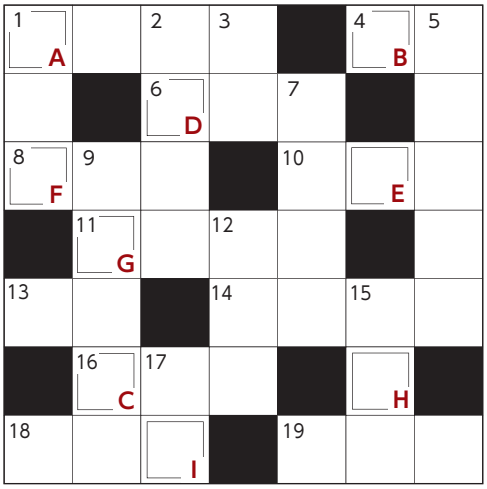
毎号自分自身の人権感覚をチェックするバロメーターにしています。10月号では、「ストレス一日決算主義」を読んで、自分はどうだろう？と考えさせられました。

（姫路市・山本繁信さん）

10月号は「働きやすい職場」がテーマでしたが、どの記事にもなるほどと思いました。特に感銘を受けたのは20大雇用（ユニバーサル就労）を実現している企業の紹介です。「どんな人も大切にする企業」がんばってください。

（高砂市・吉田謙二さん）

問 クロスワードを解いて、A～Iの文字を順番に並べると、何という言葉になるでしょう？



たてのカギ

1. 北半球で昼間の時間が一年で最も短い日
2. 相手の気持ちを考えず無理強いすること
3. 冬の味覚。季節到来で県北部の海辺の宿は大賑わいとなります
5. 互いを思いやって必要なら自分より他の人を優先させる「○○○○○の精神」で気持ちよく暮らしたい
7. 法律、和解、取り決めなどがまとまること
9. 短期間のうちに世間にひろがること。インフルエンザの○○○○○には要注意ですね
12. 何の欠点もない、完全○○○な人などいません
15. 指先の触覚で読解する記号文字。目の不自由な人には不可欠です
17. 「かわいい子には○○をさせよ」と言います

よこのカギ

1. かばん類の生産やコウノトリの郷で知られる県北東部の市
4. ○○に交われば赤くなる
6. 昔から長く続いて信用を得、有名になっている店
8. 介護を必要とせず自分一人の力で生活できること
10. 神仏に加護・救済などを願って捧げます
11. 温泉などから立ちのぼっている蒸気
13. ○○のもとの平等
14. はっきりと決めること
16. 居間での家族のだんらんやみかんを連想させる暖房具
18. 日月火水木金土の各日
19. 学校、職場等での弱者への陰湿な○○○は絶対に許されません

10月号の答え

ウ	レ	シ	イ	ア	キ	ノ	ミ	カ	ク

＼投稿＆クロスワードで「オリジナルカードケース」をプレゼント！／

「読者からのお便り」の投稿掲載者（平成27年2月号）とクロスワードの正解者（抽選で10名）に、「オリジナルカードケース」をプレゼント。本誌「きずな」へのご意見やご感想、人々とのふれあいを通した心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。
※投稿はペンネームの使用も可能です。※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

応募方法 締め切り はがきか、ファクス、メールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前（ペンネームを使用の場合も要併記）、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。1月8日（木）締め切り（必着）

応募先 〒650－0003 神戸市中央区山本通4 丁目22 番15 号 県立のじぎく会館内
（公財）兵庫県人権啓発協会　「きずな」ふれあいサロン係
TEL：078（242）5355　FAX：078（242）5360　Eメール：info@hyogo-jinken.or.jp
＊投稿者および応募者の個人情報は、管理を適切に行い、誌面づくり以外の目的には利用いたしません。

拉致問題の早期解決を願って

～拉致問題の早期解決を願う国民の集いin石川～に参加して

解決に向けて民意を結集

拉致問題の啓発を促進するために政府や自治体が主催する国民の集いが、各地で開催されています。2013(平成25)年2月には、兵庫県でも開催されました。

9月7日には、政府と石川県が主催する「拉致問題の早期解決を願う国民の集い」が金沢市内で開かれました。主催者を代表して、山谷えり子拉致問題担当大臣が「対話と圧力の姿勢を貫いて、解決に向け取り組んでいく」とあいさつ。集会には支援者や拉致被害者家族ら約600人が参加しました。

拉致被害者田口八重子さん(失踪当時22歳)の兄で、家族会代表の飯塚繁雄さんは「今回の北朝鮮との交渉で拉致被害者の帰国がなかったら後はない。報告を日本政府が精査し、間違っていれば直させるように要求しなければいけない」と講演。支援団体「救う会」の西岡力会長は「すべての拉致被害者を取り戻すことが問題解決の前提」と話しました。

拉致被害者や特定失踪者のご家族も登壇され、『自分に残された時間は限られている。全員が帰国し、家族と再会できるように皆さんの力を借りたい』と訴えました。

拉致問題への理解

1970年頃から80年頃にかけて、北朝鮮による日本人拉致が多発しました。2002(平成14)年9月に北朝鮮は日本人拉致を認め、同年10月に5人の被害者が帰国しました。10月現在、政府認定拉致被害者17人のうち、兵庫県関係者では有本恵子さん、田中実さんのお二人が認定を受けています。そのほか、北朝鮮による拉致の可能性のある行方不明者も数多くおられます。日本政府は、拉致被害者に関する捜査・調査及び情報収集活動を進めており、今後の動向が注目されます。

拉致問題は一刻も早く解決しなければならない人権侵害問題です。拉致問題についての関心を高め、認識を深めていくことが大切です。

拉致問題の早期解決を訴える飯塚代表

兵庫県警では、県警ウェブサイトにおいて、「拉致容疑事案」の被害者や、「北朝鮮による拉致の可能性を排除できない事案」に係る行方不明者の方々に関する情報の提供をお願いしています。

お心当たりのある方は、兵庫県警察本部外事課(代表078-341-7441)まで情報をお寄せください。

皆様のご協力をお願いします。

兵庫県警ウェブサイト
(www.police.pref.hyogo.jp)

新着図書紹介

ペコロスの母に会いに行く

著者　岡野雄一さん

発行所　西日本新聞社

認知症を患う母親と、介護をする息子。その実体験を描いた漫画が、話題を集めています。原作者の岡野雄一さんは、長崎県で母親を13年間介護していました。漫画では、記憶を失っていく母親の日々のしぐさを、楽しく愉快にかわいらしく描いています。ユーモラスで感動的なだけでなく、介護の困難さを感じさせ、介護について考えることができる作品です。

「ボケることも悪いことばかりじゃないかもしれない」岡野さんのメッセージに共感する人々が増え、漫画は、自費出版からはじまり、今では20万部以上を売り上げるまでになっています。2013(平成25)年には岩松了さん主演で映画化。NHKプレミアムでは、イッセー尾形さん主演のドラマとして放送されました。

岡野さんの母で、漫画のモデルにもなった岡野光江さんは8月に永眠されました。

情報ぷらざ

のじぎく文芸賞の入賞者が決定

平成26年度のじぎく文芸賞には、1373点（一般の部152点、学齢児童生徒の部1221点）応募がありました。審査の結果、下記の通り入賞者を決定しました。12月1日（月）の「人権のつどい」で表彰式を行います。

賞名	部門	部	作者名（敬称略）	作品名
最優秀賞	小説	一般	高木 浩志	マユミおばちゃんの唐揚げ
	随想	一般	小野まゆみ	イルカの詩
	詩	学齢	入江 輝侑	サクラのきょうだい
	創作童話	一般	石川 純子	お母ちゃんの力こぶ
優秀賞	小説	一般	福嶋あきら	シーポルちゃんが喋った日
		学齢	山本 幸	手のひら
	随想	一般	大橋 克子	そんなん分かるやん
		学齢	永井 魁	自分らしくいること
	詩	一般	中下 重美	風になる
		学齢	内藤 廉哉	サギの親子
	創作童話	一般	藤本 忍	心の色
		学齢	該当なし	

＊学齢＝学齢児童生徒（中学生以下）

篠山で 全国車いすマラソンを開催

9月28日（日）、「第26回全国車いすマラソン」が篠山市で開催されました。フルマラソン、ハーフマラソンへの参加者は総勢97人。篠山市役所をスタートした選手達は、日本陸連公認の篠山城跡コースを疾走し、篠山城跡三の丸広場でゴールを迎えました。今年も中学生を含む700名近くのボランティア・スタッフが大会運営に携わりました。

主催は、兵庫県、篠山市、公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会。当協会も協賛しました。

イベントガイド

加西市 人権講演会	日時 12月6日（土）14:00～15:30 場所 加西市健康福祉会館 中国自動車道加西ICより車で約5分 演題「拉致被害者の家族からの訴え」 ●講師 有本明弘さん、嘉代子さん（北朝鮮による拉致被害者家族連絡会）	問い合わせ 加西市ふるさと創造部 人権推進課 TEL 0790-42-8727
たつの市 人権を考える市民の集い（新宮会場）	日時 12月6日（土）13:30～15:40 場所 たつの市立新宮公民館 姫新線「播磨新宮」駅から徒歩3分 コーラスグループ「新宮フラウエン・コール」によるコーラス 講演会「私の歩んだ道～見えないから見えたもの～」 ●講師 竹内昌彦さん（岡山県立岡山盲学校講師）※無料、手話通訳あり	問い合わせ たつの市教育委員会 人権教育推進課 TEL 0791-64-3182
加古川市 明日をひらく人権のつどい	日時 12月7日（日）14:00～16:00 場所 加古川市民会館 JR「加古川」駅から神姫バス「市役所前」下車すぐ 人権講演会「いのちの尊さを見つめて～みんなちがって みんないい～」 ●講師 野田淳子さん（シンガーソングライター）※無料、手話通訳・要約筆記あり	問い合わせ 加古川市市民部 人権施策推進推進課 TEL 079-427-9356

わたしたちも“人権文化をすすめる県民運動”を応援しています！

©INAC KOBE LEONESSA (Photo by T.INOUE)

INAC神戸 レオネッサ

©阪神タイガース

HANSHIN Tigers

インターネットで「人権文化をすすめる県民運動」の模様を配信中！ 人権文化をすすめる　動画 検索

ハーフタイム half time

先日体調不良に陥りました。全身の痛みのために、二歩歩いては立ち止まるような状態で、職場までの移動にも苦労しました。その時感じたのは、社会のバリアフリー化は進んでいるものの、まだまだだということ。移動が困難な当事者となって初めてわかることもありました。

時と共に身体能力が低下することには逆らえず、いつまでも現状維持とはいきません。誰にも「合理的配慮」が必要なのだと思いました。

障害者権利条約はすべての人のためにあります。条約の批准により社会の中に「合理的配慮」が多く取り入れられ、すべての人にやさしい社会になることを願いつつ、自分と社会のかかわりも見つめ直したいと思います。（小池）

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

（公財）兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp
兵庫県人権啓発協会 検索

2014（平成26）年12月発行